

## 山口県中学校技術・家庭教育研究会 研究概要

**研究主題** よりよい生活を創り出す生徒を育む技術・家庭科教育

**研究副主題**

「学習マップ」と「見方・考え方モデル」を用いた「問い」を解決する授業の構想と展開

### 研究主題及び研究副主題設定の理由

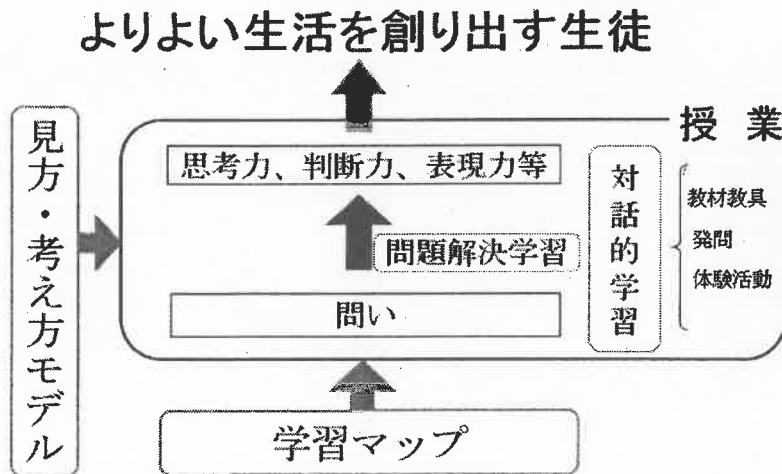
本県では、平成26年度から28年度の3年間『生活の主体者をめざす技術・家庭科の学習』という研究主題のもと、生徒が主体的に学ぼうとする学習課題「問い」に着目して授業実践を積み重ねてきた。研究を通して、授業において「問い」を生み出す手だての確立について一定の成果を得ることができた。

一方で主体的に学びはじめた生徒が授業を通して「生活を工夫し創造する資質・能力」を確実に育むための研究が必要であるという新たな課題も生まれた。

そこで、平成29年度から、生徒が主体的に学びはじめ、深い学びを獲得できるよう教師が授業を俯瞰的に構想し、実践する研究に取り組んだ。具体的には、生徒の学習履歴や生活経験を明確にする「学習マップ」と授業の展開場面において深い学びの鍵となる「見方・考え方モデル」の二つを取り入れることとした。そして、この研究に基づいて実践を積み重ねることにより、新学習指導要領に示された技術・家庭科の目標が達成できると考え、上記の研究主題・副主題を設定した。

### 研究仮説

教師が「学習マップ」と「見方・考え方モデル」を用いた授業を構想、展開することで、生徒の深い学びが得られ、それを積み重ねることで、よりよい生活を創り出す生徒の資質・能力を育むことができる。



研究構想図

### 研究内容

- ・生活を工夫し、創造する資質・能力の3つの柱のうち、思考力・判断力・表現力等の育成に焦点をあて授業を構想し実践している。
- ・授業構想の段階では、生徒の学習履歴・生活経験、小中高の学習内容、他教科の学習内容から「学習マップ」を作る。これを使って生徒の状況を把握し今後の育む力を考えて題材や学習課程、授業を構想する。また、「見方・考え方モデル」は、生徒の思考や判断の方向づけやヒントとなるもので、これを使ってより深い学びになるように、授業を構想する。
- ・授業展開では、深い学びを獲得できるように、対話的な手法を用いることとした。対話的な学習を活性化させる手だてを、教材・教具の工夫、問いの工夫、体験活動の工夫と整理し、授業実践している。